

りきよはよりて民モ一セかいたりて言けるハ我ハ是故にむかひて版きて罪を獲たり請ふニホ
 ヲお祈りて蛇を我儕より取ばなざしめよとモ一セすなとら民のために祈ればハエホモ一セに言ふ
 ひけるは汝蛇を作りてこれを杆の上に懸あけべし凡て咬れたる者之を仰ぎ觀んば生べしモ一セすな
 之を銅をもて一條の蛇をつくり之を杆の上に懸あけ凡て咬れたる者の銅の蛇を仰ぎ觀んば生たり
 ○イスラエルの子孫遂に進みてオボテお營を張りまたオボテより進みモアアの東の方に宣ふと
 この曠野においてイモアババに營を張りまた其處より進みゆきてセラレの谷に營を張り其處よ
 り進みゆきてアルンの彼旁に營を張りアルンレハモリの境より出て曠野を流るる者わてモアアとア
 モリの間わたりてモアアの界をなすなり故ハモアの戦争の記を言るあり云くスバのラヘンアルン
 の河の流即ちアルの邑も落下りモアアの界に倚る者どかれら其處よりベエル井(かいたれりエホ
 バ)がモ一セおひて汝民を集めよ我てれお水を集めよ我てれお水を集めよ我てれお水を集めよ我
 この歌を歌へり云く非の水よ湧あがれ汝等これがために歌へよ此井の湧き水をもて飲伯等これをも
 り民の君長等之を擧りて曠野よりマツタにいたりマツタよりナハリエルにいたりナハリエ
 よりバモテおいたりバモテよりモアアの野もある谷に往き曠野を對するエスガの巖おひたれり○か
 くてイスラエルの僱者をアモリ人の王シホッパ遣して言えめけるハ我をして汝の國を通過せよ我僱
 田畝も葡萄園も入じまた井の水をも飲らひ汝の境を出るまでハ唯王の道を通りて行んものと
 然るにシホッパイスラエルに自己の境の中を通る事を容さざりき而してシホッパの民をこそ多く集め
 曠野にいづくイスラエルを攻たんとしヤハッお來りてイスラエルと戰ひけるがイスラエルをもて之を

ナリ
 有餘
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十

撃やぶらうの地をアルンよりヤホのまで奪ひ取りアルンの子孫にまで至れりアルンの境界
 ハ堅固なりきイスラエルのころの城邑を盡く取り而してイスラエルの子孫にアモリ人の諸の城邑に住みへ
 ポツどろれお附る諸の村々も居るへシボッパアモリ人の王シホッパの都城なりシホッパ曾てモアアの
 の王と戰ひてかれの地をアルンまで盡くろの手より奪ひ取しなり故ハ歌をもて云るあり曰く汝ら
 シボッパに來れシホッパの城邑を築き建よへシボッパより火出でシホッパの都城より備いでてモアアのアルを
 焚つてシアルンの邊の高處を占る君王等を滅せりモアアよ汝の禮なる哉クモシの民よ汝の滅ぼる
 ろの男子ハ逃奔らうの女子ハアモリ人の王シホッパお擁らるるなり我僱ハ彼らを撃わばしシボッパを滅
 ぼしてアボッパ及び之を荒してまたノバ及びメデラにいたる斯イスラエルの子孫ハアモリ人の地ハ
 住たりしがモ一セまた人を遣してヤセルを翼はしめ遂わろの村々を取て其處おをりしアモリ人を逐
 出し轉てバモアアの路に上り往きけるにバモアアの民を盡く奪へて出で之を逐へてモア
 ンを戰たんとすエホモ一セお言たまひけるハ彼を懼るる勿れ我かれどろれ民どもこの地を盡く汝の手
 にお付す汝へシボッパお付せりしアモリ人の王シホッパに爲たるをどくお使わも爲べし是わかつて彼と
 の子とろの民をこそ多く撃てろし一人も生存る者なきお至らしめて之が地を奪ひたり
 かくてイスラエルの子孫また進みてモアアの平野お營を張り此ハヨルダの此旁
 にしてニリコに觀ふ○チッボルの子バクハイスラエルが凡てアモリ人も爲たる所を見たり是わお
 いてアモリ人大いおイスラエルの民を懼る是の觀多きお因てありモアア人ハイスラエルの子孫のた
 めに心をなやましたれバすありしアモリ人の長老等に言ふこの非衆ハ生か野の草を飼食ふて多く我

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十

めは心をややましたれバすありしアモリ人の長老等に言ふこの非衆ハ生か野の草を飼食ふて多く我
 いてアモリ人大いおイスラエルの民を懼る是の觀多きお因てありモアア人ハイスラエルの子孫のた
 めに心をなやましたれバすありしアモリ人の長老等に言ふこの非衆ハ生か野の草を飼食ふて多く我
 してニリコに觀ふ○チッボルの子バクハイスラエルが凡てアモリ人も爲たる所を見たり是わお
 かくてイスラエルの子孫また進みてモアアの平野お營を張り此ハヨルダの此旁
 の子とろの民をこそ多く撃てろし一人も生存る者なきお至らしめて之が地を奪ひたり
 かくてイスラエルの子孫また進みてモアアの平野お營を張り此ハヨルダの此旁
 してニリコに觀ふ○チッボルの子バクハイスラエルが凡てアモリ人も爲たる所を見たり是わお
 いてアモリ人大いおイスラエルの民を懼る是の觀多きお因てありモアア人ハイスラエルの子孫のた
 めに心をなやましたれバすありしアモリ人の長老等に言ふこの非衆ハ生か野の草を飼食ふて多く我

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十

の神エホバこれどもおはなま王を喜びて呼べる聲の中あり神かれらをエホバより導き出した
 せふイスラエルの強きと見ゆの故にヤコブの民ハサエラハ告げイスラエラハ告めしむらひて神ハ
 ちをの時にヤコブお告げイスラエラハ告めしむらひて神ハ告めしむらひて神ハ告めしむらひて
 獅子のでどくお身を興さんんはるの獲得たる物を食ひるの殺し物血を飲てハ國てを爲し是か
 ひてアラハアラハお向ひ汝かれらを誦ふてををも祝するを爲さかれと言けるアラハてたへ
 てアラハお言ハ我ハエホバの宣ふ事ハ凡てこれを爲さるを得ずと汝お告めしむらひて神ハ
 またアラハお言けるハ請ふ來我なんかを他の處導き往ん神あるハ汝が其處より彼らを我ためし
 ふてをを爲せんとアラハ答ふてアラハを導きて曠野に對するベオラの嶺小至るハアラハ
 お言けるハ我ため七箇の壇を此小樂き壯年七匹壯羊七匹を此小備へよとアラハ答ふてアラハ
 るがどく爲しるの壇とどく壯年一匹と壯羊一匹を獻たり

アラハハイスラエラハを祝するこのエホバの心お適ふを祝たれた此度ハ前の時のでどく
 に往て法術を求むる事を爲さるの面を曠野小向て居りアラハ目を擧てイスラエルの支派おまたが
 ひて居るを觀たり時お神の靈のれお臨みければ彼すあまの歌をのべて云くベオラの子アラハ
 目お啓きたる人言ハ神の言詞を聞き者能らざる無き者をせほろしに觀し者倒れ臥てる目の啓けたる
 者言ハアラハ汝の天幕ハ美しき哉イスラエラハ汝の住所ハ美しき哉是ハ谷々のでどくお布列ね河
 邊の園のでどくエホバの親し汝香樹のでどく水の邊の梅樹のごとしの桶よりハ水溢れんこの種ハ水
 の邊に發育んその王アラハガよりも高くなりこの國ハ振ひ興らん神これをお導き出せり是

- 一 申三〇二九
- 二 申三〇三〇
- 三 申三〇三一
- 四 申三〇三二
- 五 申三〇三三
- 六 申三〇三四
- 七 申三〇三五
- 八 申三〇三六
- 九 申三〇三七
- 十 申三〇三八
- 十一 申三〇三九
- 十二 申三〇四〇
- 十三 申三〇四一
- 十四 申三〇四二
- 十五 申三〇四三
- 十六 申三〇四四
- 十七 申三〇四五
- 十八 申三〇四六
- 十九 申三〇四七
- 二十 申三〇四八
- 二十一 申三〇四九
- 二十二 申三〇五〇
- 二十三 申三〇五一
- 二十四 申三〇五二
- 二十五 申三〇五三
- 二十六 申三〇五四
- 二十七 申三〇五五
- 二十八 申三〇五六
- 二十九 申三〇五七
- 三十 申三〇五八
- 三十一 申三〇五九
- 三十二 申三〇六〇
- 三十三 申三〇六一
- 三十四 申三〇六二
- 三十五 申三〇六三
- 三十六 申三〇六四
- 三十七 申三〇六五
- 三十八 申三〇六六
- 三十九 申三〇六七
- 四十 申三〇六八
- 四十一 申三〇六九
- 四十二 申三〇七〇
- 四十三 申三〇七一
- 四十四 申三〇七二
- 四十五 申三〇七三
- 四十六 申三〇七四
- 四十七 申三〇七五
- 四十八 申三〇七六
- 四十九 申三〇七七
- 五十 申三〇七八
- 五十一 申三〇七九
- 五十二 申三〇八〇
- 五十三 申三〇八一
- 五十四 申三〇八二
- 五十五 申三〇八三
- 五十六 申三〇八四
- 五十七 申三〇八五
- 五十八 申三〇八六
- 五十九 申三〇八七
- 六十 申三〇八八
- 六十一 申三〇八九
- 六十二 申三〇九〇
- 六十三 申三〇九一
- 六十四 申三〇九二
- 六十五 申三〇九三
- 六十六 申三〇九四
- 六十七 申三〇九五
- 六十八 申三〇九六
- 六十九 申三〇九七
- 七十 申三〇九八
- 七十一 申三〇九九
- 七十二 申三〇一〇〇

ハ強きと見ゆの故にヤコブの民ハサエラハ告げイスラエラハ告めしむらひて神ハ告めしむらひて
 獅子のでどくお身を興さんんはるの獲得たる物を食ひるの殺し物血を飲てハ國てを爲し是か
 ひてアラハアラハお向ひ汝かれらを誦ふてををも祝するを爲さかれと言けるアラハてたへ
 てアラハお言ハ我ハエホバの宣ふ事ハ凡てこれを爲さるを得ずと汝お告めしむらひて神ハ
 またアラハお言けるハ請ふ來我なんかを他の處導き往ん神あるハ汝が其處より彼らを我ためし
 ふてをを爲せんとアラハ答ふてアラハを導きて曠野に對するベオラの嶺小至るハアラハ
 お言けるハ我ため七箇の壇を此小樂き壯年七匹壯羊七匹を此小備へよとアラハ答ふてアラハ
 るがどく爲しるの壇とどく壯年一匹と壯羊一匹を獻たり

アラハハイスラエラハを祝するこのエホバの心お適ふを祝たれた此度ハ前の時のでどく
 に往て法術を求むる事を爲さるの面を曠野小向て居りアラハ目を擧てイスラエルの支派おまたが
 ひて居るを觀たり時お神の靈のれお臨みければ彼すあまの歌をのべて云くベオラの子アラハ
 目お啓きたる人言ハ神の言詞を聞き者能らざる無き者をせほろしに觀し者倒れ臥てる目の啓けたる
 者言ハアラハ汝の天幕ハ美しき哉イスラエラハ汝の住所ハ美しき哉是ハ谷々のでどくお布列ね河
 邊の園のでどくエホバの親し汝香樹のでどく水の邊の梅樹のごとしの桶よりハ水溢れんこの種ハ水
 の邊に發育んその王アラハガよりも高くなりこの國ハ振ひ興らん神これをお導き出せり是

ハ強きと見ゆの故にヤコブの民ハサエラハ告げイスラエラハ告めしむらひて神ハ告めしむらひて
 獅子のでどくお身を興さんんはるの獲得たる物を食ひるの殺し物血を飲てハ國てを爲し是か
 ひてアラハアラハお向ひ汝かれらを誦ふてををも祝するを爲さかれと言けるアラハてたへ
 てアラハお言ハ我ハエホバの宣ふ事ハ凡てこれを爲さるを得ずと汝お告めしむらひて神ハ
 またアラハお言けるハ請ふ來我なんかを他の處導き往ん神あるハ汝が其處より彼らを我ためし
 ふてをを爲せんとアラハ答ふてアラハを導きて曠野に對するベオラの嶺小至るハアラハ
 お言けるハ我ため七箇の壇を此小樂き壯年七匹壯羊七匹を此小備へよとアラハ答ふてアラハ
 るがどく爲しるの壇とどく壯年一匹と壯羊一匹を獻たり

アラハハイスラエラハを祝するこのエホバの心お適ふを祝たれた此度ハ前の時のでどく
 に往て法術を求むる事を爲さるの面を曠野小向て居りアラハ目を擧てイスラエルの支派おまたが
 ひて居るを觀たり時お神の靈のれお臨みければ彼すあまの歌をのべて云くベオラの子アラハ
 目お啓きたる人言ハ神の言詞を聞き者能らざる無き者をせほろしに觀し者倒れ臥てる目の啓けたる
 者言ハアラハ汝の天幕ハ美しき哉イスラエラハ汝の住所ハ美しき哉是ハ谷々のでどくお布列ね河
 邊の園のでどくエホバの親し汝香樹のでどく水の邊の梅樹のごとしの桶よりハ水溢れんこの種ハ水
 の邊に發育んその王アラハガよりも高くなりこの國ハ振ひ興らん神これをお導き出せり是

- 一 申三〇二九
- 二 申三〇三〇
- 三 申三〇三一
- 四 申三〇三二
- 五 申三〇三三
- 六 申三〇三四
- 七 申三〇三五
- 八 申三〇三六
- 九 申三〇三七
- 十 申三〇三八
- 十一 申三〇三九
- 十二 申三〇四〇
- 十三 申三〇四一
- 十四 申三〇四二
- 十五 申三〇四三
- 十六 申三〇四四
- 十七 申三〇四五
- 十八 申三〇四六
- 十九 申三〇四七
- 二十 申三〇四八
- 二十一 申三〇四九
- 二十二 申三〇五〇
- 二十三 申三〇五一
- 二十四 申三〇五二
- 二十五 申三〇五三
- 二十六 申三〇五四
- 二十七 申三〇五五
- 二十八 申三〇五六
- 二十九 申三〇五七
- 三十 申三〇五八
- 三十一 申三〇五九
- 三十二 申三〇六〇
- 三十三 申三〇六一
- 三十四 申三〇六二
- 三十五 申三〇六三
- 三十六 申三〇六四
- 三十七 申三〇六五
- 三十八 申三〇六六
- 三十九 申三〇六七
- 四十 申三〇六八
- 四十一 申三〇六九
- 四十二 申三〇七〇
- 四十三 申三〇七一
- 四十四 申三〇七二
- 四十五 申三〇七三
- 四十六 申三〇七四
- 四十七 申三〇七五
- 四十八 申三〇七六
- 四十九 申三〇七七
- 五十 申三〇七八
- 五十一 申三〇七九
- 五十二 申三〇八〇
- 五十三 申三〇八一
- 五十四 申三〇八二
- 五十五 申三〇八三
- 五十六 申三〇八四
- 五十七 申三〇八五
- 五十八 申三〇八六
- 五十九 申三〇八七
- 六十 申三〇八八
- 六十一 申三〇八九
- 六十二 申三〇九〇
- 六十三 申三〇九一
- 六十四 申三〇九二
- 六十五 申三〇九三
- 六十六 申三〇九四
- 六十七 申三〇九五
- 六十八 申三〇九六
- 六十九 申三〇九七
- 七十 申三〇九八
- 七十一 申三〇九九
- 七十二 申三〇一〇〇

